

廃棄物管理を通じたアフリカのきれいな街と健康な暮らしの実現に向けた  
「アフリカのきれいな街プラットフォーム」の設立に関する  
マプト宣言（仮訳）

アフリカ各国の政府及び市、すなわちボツワナ、ブルキナファソ、カメルーン、コートジボワール、コンゴ民主共和国、ジブチ、エジプト、エチオピア、ガーナ、ケニア、マダガスカル、マラウイ、モロッコ、モザンビーク、ナミビア、ニジェール、ナイジェリア、コンゴ、セネガル、南スーダン、スーダン、ウガンダ、ザンビア及びジンバブエ、日本、国際協力機構、横浜市、国連環境計画(UNEP)、国連人間居住計画(UN-HABITAT)は、2017年4月25日～27日にモザンビーク・マプトにて開催された、モザンビークの知見と経験を共有し、アフリカ各国のネットワーキング促進のためのプラットフォームの設立準備会合に参加し、

2015年9月に国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)において、廃棄物管理に関するターゲットが設定され、各国においてナショナルターゲットの設定とモニタリングを実施し、パリ協定のうち自国が決定する貢献の達成とAUアジェンダ2063を実現する必要があることを踏まえ、

ケニア・ナイロビで開催されたTICADV Iにおける廃棄物管理セミナーで指摘された、アフリカにおける相互学習の重要性を踏まえ、2019年に開催されるTICADV IIにおいて、プラットフォームに基づく廃棄物管理の向上に係る具体的な活動成果を報告することを目指し、

都市域の急速な拡大と人口増加に直面するアフリカ地域において、国や都市の状況に応じた廃棄物の組織立った収集・運搬、資源化、無害化又は減容化のための中間処理、適切な最終処分によって、アフリカの街をきれいにすることが、公衆衛生の向上や環境の改善のみならず、投資や観光の促進をはじめとして経済にとっても多大な貢献をすることを強く認識し、

資源の有効利用を通じて環境と経済の両立を図る3R（廃棄物の発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle))の取組を含む循環型社会及び循環経済の確立が、今後益々重要になることを確認し、

廃棄物処理に関する適切な政策と人材、質の高いインフラにより、各国の実情に合った廃棄物管理体制を実現するため、アフリカ各国、日本政府、国際機関、民間部門その他のステークホルダーによる連携の重要性を強調し、

参加者は、モザンビークと日本の共同議長の下、法的拘束力のない文書として、ここに以下の宣言をする。

1. アフリカにおける廃棄物管理や3Rに関する取組について、情報や経験の共有、人材及び組織の能力向上、優良な取組に関するガイドライン提示と各国の実情に合わせた適用を行う「アフリカのきれいな街プラットフォーム」の設立を全会一致で支持し、歓迎する。
2. 福祉、投資及び観光の促進の基盤となるきれいな街と健康な暮らしの実現に向けて、廃棄物処理に関する適切な政策と人材、質の高いインフラを求めるアフリカの他の国々、開発パートナー及びその他の機関の本プラットフォームへの新たな参加を歓迎する。
3. 日本政府は、アフリカ各国、UNEP、UN-HABITAT その他の機関と協力しつつ、アフリカ各国の主体的な参加の下で本プラットフォーム活動を推進するための持続可能な実施体制を検討する。